

●同時在園者数（A）

同時在園率のピーク時間や割合は休日、平日で異なりますが、それぞれのピーク時の値で同時在園者数を算出すると休日が多くなるため、休日の 93 人を同時在園者数としました。

｜休日

・ 742 人（公園利用者総数） × 12.5%（同時在園率） = 93 人

｜平日

・ 752 人（公園利用者総数） × 11.6%（同時在園率） = 87 人

単位：%

時間		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	総入園者数 (人)
街区公園	休日	0.7	1.2	2.8	4.0	7.3	7.2	6.2	8.7	11.5	12.8	12.5	8.5	7.4	6.0	9,326
	平日	0.4	0.8	2.7	4.6	7.6	5.2	5.7	6.5	11.0	11.0	11.7	8.5	7.9	7.5	10,885
近隣公園	休日	1.4	2.1	4.4	5.8	8.3	7.9	8.2	10.8	12.5	12.2	10.4	8.0	6.9	6.1	34,079
	平日	1.1	1.5	2.4	3.4	6.0	4.6	5.3	6.3	7.4	9.6	11.6	9.7	8.6	7.5	34,544
地区公園	休日	2.5	5.6	8.2	11.6	15.1	16.7	17.5	19.2	20.4	18.3	15.8	11.2	9.7	7.9	41,377
	平日	2.1	3.2	4.2	6.5	9.1	7.3	8.0	8.6	9.0	10.0	11.5	9.5	8.4	6.7	29,948
運動公園	休日	3.6	8.4	15.1	21.1	24.9	26.5	26.7	28.3	26.9	19.8	11.7	7.5	6.7	4.9	152,206
	平日	1.2	1.8	5.5	9.2	11.0	9.2	8.1	7.5	6.8	6.8	8.2	6.8	6.6	1.3	74,052
総合公園	休日	1.2	2.2	4.7	9.0	12.5	13.9	14.2	15.8	16.2	13.7	9.4	6.2	5.4	4.0	196,787
	平日	2.1	2.8	4.4	8.8	11.3	10.3	10.1	9.8	9.3	8.6	7.9	6.2	5.2	2.8	111,783
広域公園	休日	1.0	6.5	10.0	15.8	21.5	24.2	26.2	27.9	27.0	19.9	10.1	5.8	3.0	1.9	115,271
	平日	2.0	12.7	17.7	26.1	30.7	29.3	27.6	24.7	23.3	13.0	7.3	4.5	3.5	1.0	53,858
国営公園	休日	0.2	0.4	1.8	10.7	22.1	31.4	36.5	38.8	36.3	26.7	7.7	5.2	4.9	2.0	116,653
	平日	0.5	0.4	1.6	10.5	22.6	25.8	26.9	22.2	16.8	12.1	5.1	3.2	2.7	1.3	35,668
全体	休日	1.6	4.2	7.7	13.2	18.4	21.4	22.8	24.6	24.0	18.6	10.3	6.7	5.6	3.9	665,699
	平日	1.6	3.7	6.1	10.9	14.6	13.6	13.3	12.3	11.5	9.6	8.4	6.4	5.7	3.0	350,738

：同時在園率の上位3位までの時間帯

出典：令和3年度都市公園利用実態調査報告書（抄）（国土交通省、令和4年3月）P.31

●近隣公園の自動車交通分担率（B）

近隣公園のアクセス手段は以下のとおりとなっており、自動車は 28.9%となっていることからこの値を採用しました。

単位：%										
	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス、電車等の公共交通	貸切バス	その他	無効	無回答	回答数(票)
街区公園	55.6	23.6	0.4	16.5	3.1	0.0	0.3	0.3	0.1	992
近隣公園	44.7	17.6	0.8	28.9	5.9	0.0	0.5	1.1	0.5	2,700
地区公園	36.3	14.2	1.4	42.4	4.1	0.3	0.1	0.6	0.6	3,622
運動公園	20.6	11.4	1.7	59.4	5.0	0.3	0.2	0.9	0.3	8,035
総合公園	22.6	9.6	1.1	59.8	5.1	0.1	0.3	0.8	0.5	12,530
広域公園	9.1	7.3	0.8	75.9	5.5	0.2	0.2	0.6	0.5	7,347
国営公園	3.2	4.3	0.5	83.4	6.9	0.7	0.6	0.4	0.1	6,297
全体	20.3	10.0	1.1	61.6	5.3	0.3	0.3	0.7	0.4	41,523

出典：令和３年度都市公園利用実態調査報告書（抄）（国土交通省、令和４年３月）P.62

●1台あたりの乗車人数（C）

・2.5人／台 と仮定

以上より

$$\text{駐車場台数} = 93 \text{ 人} \times 28.9\% \div 2.5 \text{ 人／台} \div 11 \text{ 台}$$

また、車椅子使用者用駐車施設の設置数については、都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン（改訂第２版）を踏まえ、1台とします。

なお、「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例施設整備マニュアル」にも車椅子使用者の駐車台数が記載されていますが、都市公園の移動等円滑化整備ガイドラインと同じ台数になります。

駐車場の規模(台)	必要数
～ 50	1
51 ～ 100	2
101 ～ 150	3
151 ～ 200	4
201 ～ 300	5

表 車椅子使用者用駐車施設の設置数

出典：都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン（改訂第２版）（国土交通省、令和４年３月）、P.65

・車いす使用者用駐車施設の数、バリアフリー新法では下表のとおりです。

全駐車台数	移動等円滑化基準	移動等円滑化誘導基準
200以下	1以上	2%以上
200超		1%+2以上

表 車椅子使用者用駐車施設の設置数

出典：茨城県ひとにやさしい街づくり条例施設整備マニュアル P.25

以上より、駐車場台数は一般車 11 台、車いす利用者 1 台の合計 12 台とします。

4. 駐輪場

駐輪場台数は、以下の式を基に算定しました。

$$\text{駐輪場台数} = \text{同時在園者数 (A)} \times \text{交通分担率 (B)}$$

●同時在園者数 (A)

同時在園率は駐車場の算定と同じ 93 人を用います。

| 休日

$$\cdot 742 \text{ 人 (公園利用者総数)} \times 12.5\% \text{ (同時在園率)} = \underline{93 \text{ 人}}$$

●近隣公園の自転車交通分担率 (B)

近隣公園のアクセス手段は以下のとおりとなっており、自転車は 17.6% となっていることからこの値を採用しました。

単位: %										
	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス、電車等の公共交通	貸切バス	その他	無効	無回答	回答数(票)
街区公園	55.6	23.6	0.4	16.5	3.1	0.0	0.3	0.3	0.1	992
近隣公園	44.7	17.6	0.8	28.9	5.9	0.0	0.5	1.1	0.5	2,700
地区公園	36.3	14.2	1.4	42.4	4.1	0.3	0.1	0.6	0.6	3,622
運動公園	20.6	11.4	1.7	59.4	5.0	0.3	0.2	0.9	0.3	8,035
総合公園	22.6	9.6	1.1	59.8	5.1	0.1	0.3	0.8	0.5	12,530
広域公園	9.1	7.3	0.8	75.9	5.5	0.2	0.2	0.6	0.5	7,347
国営公園	3.2	4.3	0.5	83.4	6.9	0.7	0.6	0.4	0.1	6,297
全体	20.3	10.0	1.1	61.6	5.3	0.3	0.3	0.7	0.4	41,523

出典：令和 3 年度都市公園利用実態調査報告書（抄）（国土交通省、令和 4 年 3 月）P.62

以上より

$$\text{駐輪場台数} = 93 \text{ 人} \times 17.6\% \div 17 \text{ 台}$$

5. トイレ

トイレは、男女用トイレを各1つつ、バリアフリースイールを1箇所設置する計画とします。手足が洗える水場を併設します。

トイレの必要規模（穴数）は、以下の式を基に算定しました。

$$\text{穴数} = \text{同時在園者数 (A)} \times \text{便所利用率 (B)}$$

●同時在園者数 (A)

同時在園率は駐車場の算定と同じ93人を用います。

| 休日

$$\cdot 742 \text{ 人 (公園利用者総数)} \times 12.5\% \text{ (同時在園率)} = \underline{\underline{93 \text{ 人}}}$$

●便所利用率 (B)

- ・公園便所利用率の一般的な数値は1/30~1/80 (30人~80人に1便器) ※1
⇒中間値の 1/55 を採用

以上より

$$\text{器数} = 93 \text{ 人} \times 1/55 \div 1.5 \text{ 穴 (男女合計)}$$

上記を踏まえ、男女それぞれの穴数は最小限の数 (1穴)とします。

また、都市公園の移動等円滑化基準※2の第8条第2項では、『公園内に便所を設ける場合、そのうち1以上は、バリアフリースイールを設置した便所とするか、独立型バリアフリースイールとする』との記載があることから、バリアフリースイールも設置します。

	大便器	小便器
バリアフリースイール	1穴	
男	1穴	1穴
女	1穴	

※1：都市公園技術標準解説書（（一社）日本公園緑地協会、令和元年）P.356

※2：都市公園の移動等円滑化基準＝移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める省令（平成18年国土交通省令第115号（平成24年3月1日改正））

6. 植栽

- ・ 既存の自然環境を活かし、敷地内の木陰スペースを確保するとともに、景観に配慮した計画とします。
- ・ 広場スペースには、木陰スペースとなるシンボルツリーを計画します。
- ・ 貴重植物の移植地となっているエリアは、継続的な維持管理により植物の生息環境のを保全を行いながら、環境学習等での活用の可能性を検討します
- ・ 「つくば市緑の基本計画(R2)」に基づき、地区内において緑被率30%以上、周辺の緑を合わせて緑被率40%以上の確保を目指します。
- ・ 樹種の選定にあたっては、地域の植生、景観、季節感、維持管理性などを考慮し、周辺の植生との連続性に配慮した計画を行います。



参考:原っぱの中のシンボルツリー
(東京都立川市 昭和記念公園) *1



参考: 季節感のある公園の植栽
(茨城県つくば市 反町の森公園) *2

出典:

*1: <https://www.iosonobellezza.it/2022/05/09/forest-tower-la-torre-danese-che-emerge-dalla-natura/>

*2: <https://tsukubalive.issei-syoji.co.jp/leisure/park/tsukuba-sorimachinomorikouen-w426-20240425->

7. サイン

- ・ 公園の出入り口に公園の看板を計画します。
- ・ エリアを示す案内サインや植物や生き物の情報サインを計画します。
- ・ 注意書きについては、自由度の高い公園を目指しながら、最低限必要な内容について検討します。



参考: MAP

(岩手県岩手郡 石上の丘美術館)*1



参考:マナー案内

(神奈川県横浜市 新横浜公園)*2



参考:施設表示

(埼玉県川口市 川口市立グリーンセンター)*3

出典: *1: <https://ishigami-iwate.jp/flower-and-art-forest-map>

*2: <https://www.nissan-stadium.jp/sp/csr/safety08.php>

*3: https://trico-kawaguchi.jp/article/odekakespot_kawaguchi/70099

④需要圏域・利用者層・利用者数の検討と設定

- ・ 近隣公園であることから需要圏は半径500m程度と想定します。
- ・ 需要圏内には、春風台地区、上野地区、上境地区、桜三丁目地区が含まれており、つくば市行政区別人口統計表(令和7年11月)による人口は以下のとおりです。

表 周辺地区の人口

行政区名	人口(人)
春風台	1,542
上野	171
上境	184
桜三丁目	501
上記合計	2,398

- ・ 利用者層は、近隣の小学校に通う小学生及びその保護者及び、周辺に居住する未就学児から高齢者等も含めた幅広い年齢層を対象とします。

⑤アクセスや導線の検討と設定

歩行者の動線計画

- ・ 細長い敷地形状により、公園内の各エリア間に距離が生じるため、様々な場所からアクセスしやすいように、複数箇所出入口を設ける計画とします。
- ・ 敷地内は自然を感じながら散策できるよう、回遊性のある園路を計画します。
- ・ 敷地内の高低差はスロープで緩やかに全体をつなぎ、日常的な散歩やランニングなどでの活用も想定した整備を検討します。

自動車の動線計画

- ・ 近隣に同様の施設が少ないこと、イベント利用時や地域団体等の遠方からの利用者が想定されることから、敷地内に駐車場を計画します。
- ・ 駐車場は主要道路の交通量及び、小学校の通学路となる新設歩道の横断の安全性を考慮し、敷地南側の道路からアクセスできる場所に配置し、園路で各エリアに接続する計画とします。
- ・ 敷地北側道路沿いには、低地部分の維持管理作業にも配慮し、メンテナンス用車両が侵入可能な園路を配置します。

自転車の動線計画

- ・ 近隣の子どもや学生などを含めた多様な居住者の利用を想定し、敷地内に駐輪場を計画します。
- ・ 住宅地からの主なアクセスを想定し、交差点付近の高台の平場のスペースに配置し、園路で各エリアに接続する計画とします。

バリアフリーに配慮した動線計画

- ・ 「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン[改訂第2版]」に基づき、現況の敷地内高低差を踏まえ、横断勾配 8 パーセント以下の園路を敷地の一部に計画し、バリアフリーに配慮した計画とします。
- ・ 車椅子使用者用駐車場から公園の主要な場所やトイレ等へのアクセスは、新設の歩道からアクセする計画とします。

⑥環境の保全と創出に関する検討と設定

1. 簡易生物調査

1-1 目的

対象地区とその周辺域には、昔ながらの谷戸地形と自然環境が残されています。そのような場所では、地域特有の希少種や環境指標となる種が、現在も生存していることが考えられます。

また、「生物多様性つくば戦略（2025）」では、「つくば市で大切にしたい生きもの」が選定されており、生物多様性の保全・再生を図る施策が計画されています。

以上の現況や背景を踏まえて、本公園予定地内における環境の保全と創出において、対象地区とその周辺域に生息・生育する生物種を把握する簡易生物調査を行うことで、注目すべき保全目標種や本来あるべき生態系の構成について設定を行いました。

1-2 方法

対象地区とその周辺域（斜面林・林道・草地、田んぼ・湿地、水路・池・たまり・川）を踏査して、生物の目視確認を行いました。確認した生物の種類、個体数および確認位置を平面図と野帳に記入しました。

ただし、水中に生息する生物についてはタモ網を用いて確認しました。また、ホタル類の確認のため、日没後の 19：00～21：00 に対象地区とその周辺域を踏査しました。

なお、希少種と外来種については可能な限り写真撮影し、種の同定が難しい生物は持ち帰って室内で同定しました（希少種は確認・撮影後にその場に戻しました）。



写真 1. 現地調査状況(鳥類)



写真 2. 現地調査状況(水生生物)

1-3 結果

可能な限り生物種や生態系の現状を正確に把握するため、以下のとおり夏季の結果を整理しました（2025 年 7 月 18 日）。夏季は 107 種でした（表 1 参照）。

対象地区とその周辺域で確認した「つくば市で大切にしたい生きもの」は 11 種で、このうち、対象地区における「つくば市で大切にしたい生きもの」としては、ヤマユリ・ニホンカナヘビ・ヘイケボタル・ヤマトタマムシ・ニイニイゼミ・・・サシバの 6 種でした。

また、対象地区の外来種については、セイダカアワダチソウ・ヌマガエル・アカボシゴマダラ・アメリカザリガニ・サカマキガイの 5 種でした（図 1）。このうち、環境省が指定する特定外来種は、アカボシゴマダラ・アメリカザリガニの 2 種でした。さらに、国内外来種であるヌマガエルは多く生息していました。

表 1. 簡易生物調査結果（生物種一覧表 1/3）

種 名		夏 季		備 考
		(2025年7月18日)		
		対象地区	周辺域	
植 物	ヤマザクラ	●		
	クスノキ	●	●	(実)
	ハゼノキ	●		(実)
	クヌギ	●	●	(実)
	ミズナラ	●	●	(実)
	シラカシ	●	●	(実)
	エノキ	●		※枝にアカボシゴマダラ確認
	ネムノキ	●		(花)
	スギ	●	●	
	ヤマグリ	●		(実)
	コゴメヤナギ	●	●	
	ヨシ	●	●	
	ガマ	●	●	
	ススキ	●	●	
	ヒシ		●	
	キツネノボタン	●		(花・実)
	セリ	●		
	ヨモギ	●		
	ヤマユリ	●		つくば市：大切にしたい生きもの
	ノカンゾウ		●	
	クズ	●	●	
	カラスウリ	●	●	(実・花)
	サンショウ	●		
	セイタカアワダチソウ	●	●	要注意外来生物・侵略的外来種
	タケ亜科	●	●	
	ウキクサ科	●		
哺乳類	アブラコウモリ		●	つくば市：大切にしたい生きもの
	アズマモグラ	●	●	(モグラ塚)
	イノシシ	●		(足跡)
	アライグマ			特定外来生物(足跡)
両生類	アマガエル	●	●	
	ヌマガエル	●	●	国内外来種 ※生息数多い
	ウシガエル		●	特定外来生物(幼生・成体)
爬虫類	ニホンカナヘビ	●	●	つくば市：大切にしたい生きもの
	ミシシippアカミミガメ		●	条件付特定外来生物
昆 虫	ヘイケボタル	●	○	つくば市：大切にしたい生きもの
	ゲンジボタル		○	つくば市：大切にしたい生きもの
	ヤマトタムシ	●		つくば市：大切にしたい生きもの
	オニヤンマ		●	つくば市：大切にしたい生きもの
	ホソミオツネトンボ		●	つくば市：大切にしたい生きもの
	ノコギリクワガタ		●	(死骸)
	シロスジカミキリ	●		(食痕)
	シロテンハナムグリ		●	
	ドウガネブイブイ	●		

(生物種一覧表 2/3)

種 名		夏 季		備 考
		(2025年7月18日)		
		対象地区	周辺域	
昆 虫	オオシオカラトンボ	●	●	
	シオカラトンボ	●	●	
	ショウジョウトンボ		●	
	ギンヤンマ		●	
	チョウトンボ		●	
	ハグロトンボ	●	●	
	ノシメトンボ		●	
	キアゲハ	●	●	
	カラスアゲハ	●		
	モンキチョウ	●		
	キタテハ	●	●	
	ツバメシジミ	●	●	
	ヒメウラナミジャノメ	●		
	コムスジ	●		
	オオムラサキ		○	つくば市：大切にしたい生きもの(黒国蝶)
	ニイニイゼミ	●	●	つくば市：大切にしたい生きもの
	ヒグラシ	●	●	(鳴声)
	ミンミンゼミ	●		
	アカボシゴマダラ	●		特定外来種(成体) ※幼虫はエノキ食
	コカゲロウ科	●	●	(幼虫)
	コムズムシ属	●	●	
	アメンボ科	●	●	
	オオスズメバチ	●		(危険生物)
	ハナアブ科	●	●	(幼虫)
	ユスリカ科	●	●	(幼虫)
	コバネイナゴ	●		(幼虫)
ショウリョウバッタ	●		(幼虫)	
ヒメギス	●		(幼虫)	
キリギリス科	●		(幼虫)	
クモ類	ジョロウグモ	●		
	ナガコナネグモ	●		
鳥 類	サシバ	●		環境省・茨城県：絶滅危惧Ⅱ類 つくば市：大切にしたい生きもの
	オオタカ		○	環境省・茨城県：準絶滅危惧種 つくば市：大切にしたい生きもの
	カワセミ		●	つくば市：大切にしたい生きもの
	コゲラ		●	つくば市：大切にしたい生きもの
	ツバメ	●		
	ホオジロ	●		
	ハクセキレイ			
	キセキレイ			
	ジョウビタキ			
	シジュウカラ	●	●	(鳴声)
	ヤマガラ			
	ウグイス	●		
	メジロ	●		(鳴声)
	カケス	●		

(生物種一覽表 3/3)

種 名		夏 季		備 考
		(2025年7月18日)		
		対象地区	周辺域	
鳥 類	オナガ	●		
	ハシブトガラス	●	●	
	ハシボソガラス		●	
	ヒヨドリ	●	●	
	ムクドリ	●	●	
	キジバト	●	●	
	スズメ	●	●	
	ダイサギ	●	●	
	コサギ		●	
	アオサギ		●	
	カルガモ		●	
	カワウ		●	
	コジュケイ	●		(鳴声)
魚 類	クロダハゼ	●	●	
	ウキゴリ		●	
甲殻類	ダンゴムシ	●	●	
	アメリカザリガニ	●		条件付特定外来生物
	ミズムシ科	●	●	
貝 類	カワニナ		●	
	ヒメタニシ		●	
	サカマキガイ	●	●	国外外来種
	オトメマイマイ属	●		
	タイワンシジミ種群		●	要注意外来生物
計		80	69	
		107		

※地域住民からの情報によれば、生息数は多くないものの、ヘイケボタルとゲンジボタルの両種がいたとのこと。

※周辺地区とは、対象地区周辺の斜面林、田んぼ・湿地、水路・池、草地、林道など

※●：現地確認 ○：住民聞取・既存文献で周辺域に生息等 ●：平面図に示す希少種箇所 ●：平面図に示す外来種箇所

【参考文献】

- ・「生物多様性つくば戦略」令和7年4月 つくば市 生活環境部 環境保全課 環境管理係

<https://www.city.tsukuba.lg.jp/soshikikarasagasu/seikatsukankyobukankyohozenka/gyomuanna>

- ・「レッドリスト・レッドデータブック」 環境省

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>

- ・「茨木県版レッドリスト・レッドデータブック」 茨木県

https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/shizen/tayousei/redbook/ibaraki_redbook.html

- ・「特定外来生物等一覧」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.htm>

- ・「侵入生物データベース」

<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/category.html>

- ・「NPO金田台の生態系を守る会」

<https://kondadaiseitakei.jim-dofree.com/%E3%83AA%E3%83BC%E3%8395%E3%83AC%E3%8388%E3%82AC%E3%82A4%E3%8389>

1-4 まとめ

1) 目標種の設定

今回の夏季の調査結果より、対象地区とその周辺域で確認した「つくば市で大切にしたい生きもの」11種は、地域特有の希少種であるとともに、現在もなお残存する谷戸地形と自然環境の環境指標種といえます。特に注目すべきはヘイケボタルとサシバとなります。



写真 3. 現地で確認したヘイケボタル



写真 4. 現地で確認したサシバ

ヘイケボタルは、つくば市内の生息地（神郡細草川地区）では、NPO つくば環境フォーラムや地元住民によって継続的に保護される地域のシンボリックな存在になっています。このボタルの生息・生育には、陸域と水域の良好な水辺環境が必要です。幼虫時は水中で小型の巻貝を食べて生活しますが、蛹時には陸上に移動して土の中で蛹になります。羽化した成虫は夜間に水辺を飛び回り、日中は植生や樹木の葉に身を潜めます。このように多様な水辺環境が必要になるため、環境の保全と創出においては、ヘイケボタルを「保全目標種」に設定します。

サシバは、生態系の頂点にたつ猛禽類です（図 2）。春季から秋季にかけて繁殖のために里地里山へ飛来し、冬季には南方地域へ渡るものの、餌生物（カエル類・トカゲ類・昆虫類・小動物）が豊富な里地里山がないと、そこで繁殖・生育ができません。したがって、サシバもヘイケボタルと同様に「保全目標種」に設定します。

なお、ヘイケボタルとサシバ以外に、対象地区とその周辺域で確認した「つくば市で大切にしたい生きもの」11種についても環境指標生物」に設定します。

- ・[保全目標種] : ヘイケボタル・サシバ・・・2種
- ・[環境指標生物]: ヤマユリ・アブラコウモリ・ニホンカナヘビ・ヤマトタマムシ・オニヤンマ・ホソミオツネトンボ・ニイニイゼミ・カワセミ・コゲラ・オオムラサキ・ゲンジボタル・オオタカ・・・12種

2) 生態系の把握

今回の夏季の調査結果より、対象地区とその周辺域において本来あるべき谷戸の生態系ピラミッドについての素案を作成しました（図 2）。

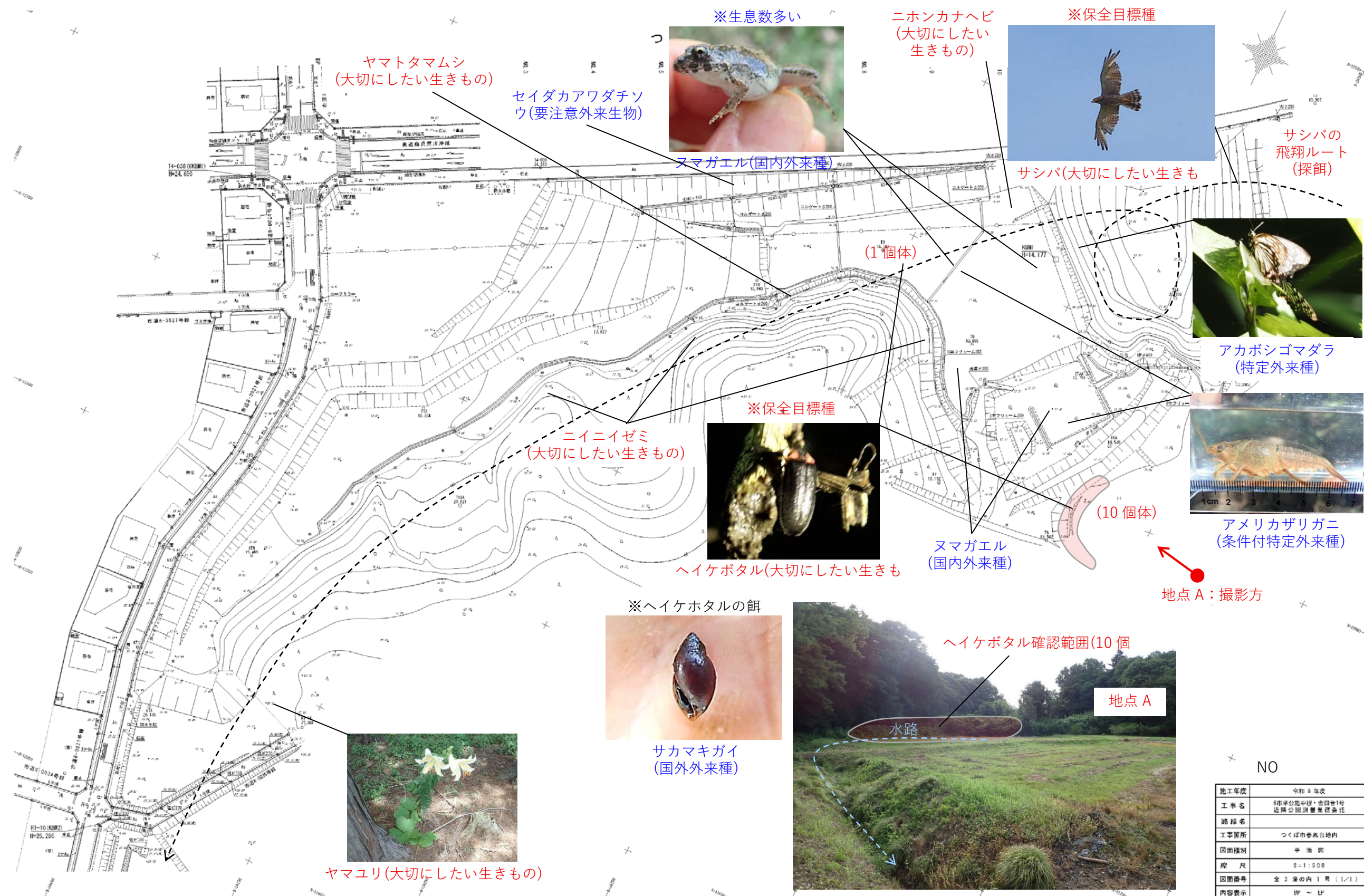


図 1. 調査結果による対象地区の希少種と注意すべき外来種の確認情報

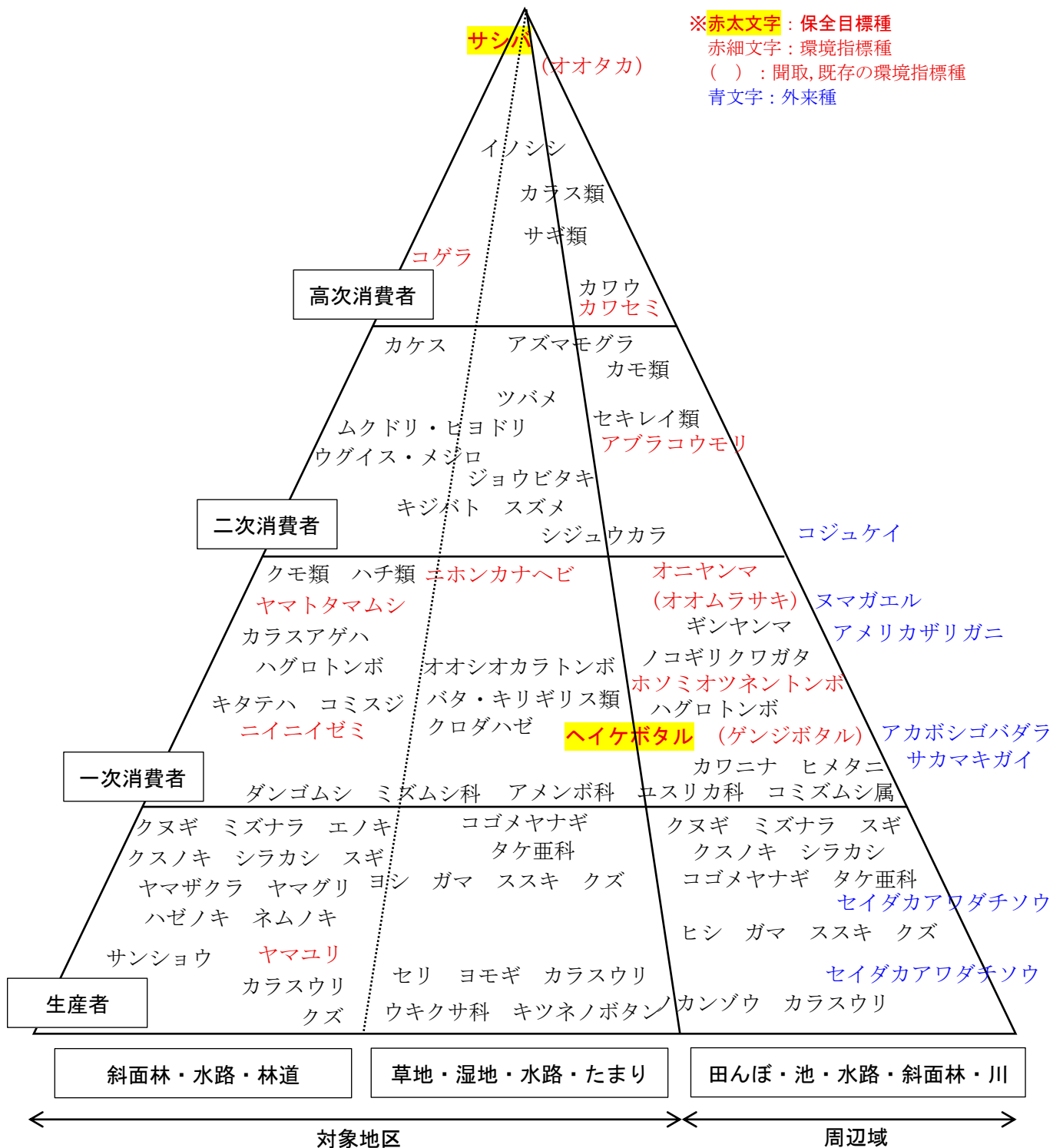


図 2. 対象地区とその周辺域の本来あるべき生態系ピラミッド構成（暫定案：夏季）

【留意事項】

「保全目標種」や「環境指標生物」は、今回調査した夏季に加え、春季と秋季、冬季の調査結果を含めた季別の生物をきちんと把握・精査することが望ましいです（季節ごとでしか確認できない地域特有の生物（特に野草）があるため）。

なお、「保全目標種」や「環境指標生物」は、事業後のモニタリングや順応的管理、地域の子どもたちへの環境学習を計画・実施する際にも重要となります。

2. 緑と生き物のネットワークの形成

本公園の南には、中根・金田台歴史緑空間があり、ゲンジボタルやオオタカなど貴重なものも含め、様々な生き物が生息しています。本公園の北側にも既存の樹林地が残されており、南北に緑や生き物のネットワークが形成されています。

また、「つくば市自然環境基礎調査報告書（R7.3）」では、本公園の周辺地域においても、つくば市で大切にしたい生きもののリストに該当する種が見つかっており、これらの生き物が本公園と周辺が一体となって生息できる環境づくりを担っていくことが望ましいと考えます。

以上を踏まえ、周辺の緑や生き物のネットワークを強化していくため、本公園においても多様な生き物が生息できる環境づくりを行います。



3. 中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言を踏まえた環境づくり

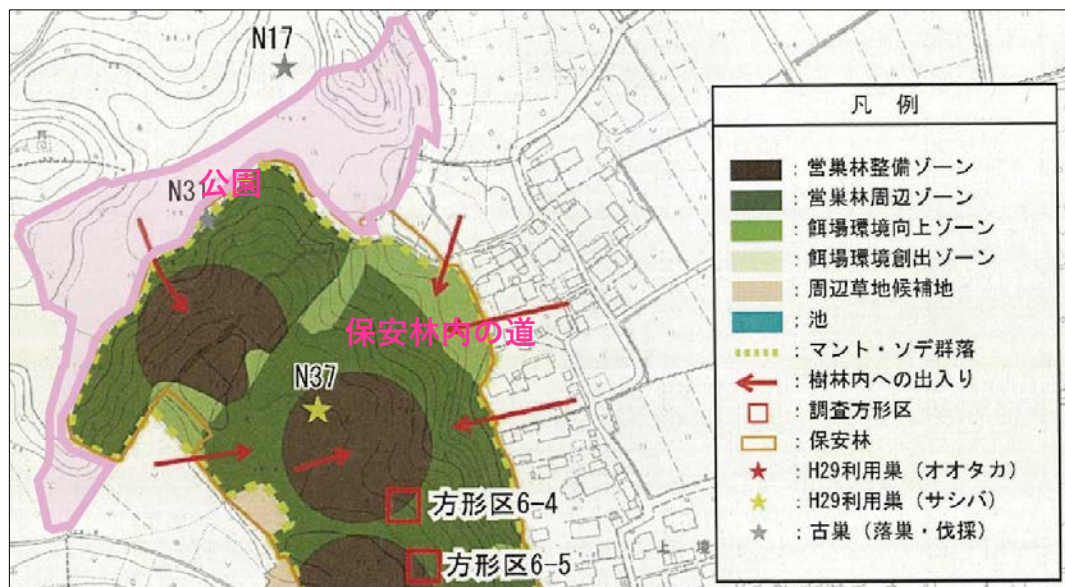
中根・金田台地区では、平成 30 年 2 月に「中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言」（以下、「本提言」という）が中根・金田台地区貴重動植物生態調査委員会により出されており、本公園及びその周辺における生き物調査や空間づくり、維持管理に関する提言などが記されています。

本提言に記された内容に配慮しながら環境の保全と創出の方針を設定するため、本提言の内容を整理し、方針を整理しました。

3-1 オオタカについて

本提言の P.18 に、オオタカに関する上境地区の営巣林のゾーン区分が示されており、以下のような状況となっています。

- ・オオタカの営巣地となることを目的とした「営巣林整備ゾーン」が公園に隣接している
- ・保安林内の道が「営巣林整備ゾーン」に含まれている



出典：中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言（H30.2）p.18 に加筆

「営巣林整備ゾーン」が隣接しているものの、過去から現在までこの場所でオオタカの生息が確認できていないこと、継続的な調査や取り組みが実施されていないことから、公園整備（公園用地内）においては、営巣に関する特段の対応は行わない方針とします。

3-2 ゲンジボタルについて

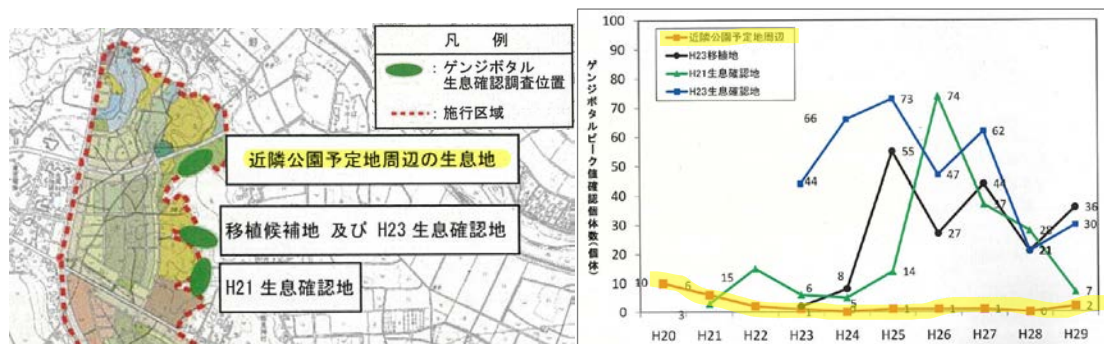
ゲンジボタルについて、本提言の P.37 に注目すべき昆虫類の保護方針が記載されており、『近隣公園予定地を本種の生息が可能な自然保全型の公園として整備することとし』との記載があります。

その後に記載の『近隣の水路への移植』については、P.43 以降の移植結果からすでに学校隣接地への移植が完了しているものと読み取れます。

表 2-18 注目すべき昆虫類等の保護方針（1）		
保護	種 名	保護方針
講じる必要あり	ゲンジボタル (コウチュウ目ホタル科)	現在の生息箇所である近隣公園予定地を本種の生息が可能な自然保全型の公園として整備することとし、さらに、近隣の水路への移植によるバックアップとしての保護策もあわせて実施する。
		本種が寄生するシロスジカミキリの生息環境であるク

出典：中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言（H30.2）p.37

また、本提言の P.44 にはゲンジボタルの生息確認調査位置図が示されており、本近隣公園でも過去に生息が確認されています。ただし、P.50 に示されている H29 年までの調査の中で、確認個体数が 0 である年もあり（H24,H28）、現在も生息しているかは分からない状況です。本業務で実施した簡易調査においても個体は確認できませんでした。



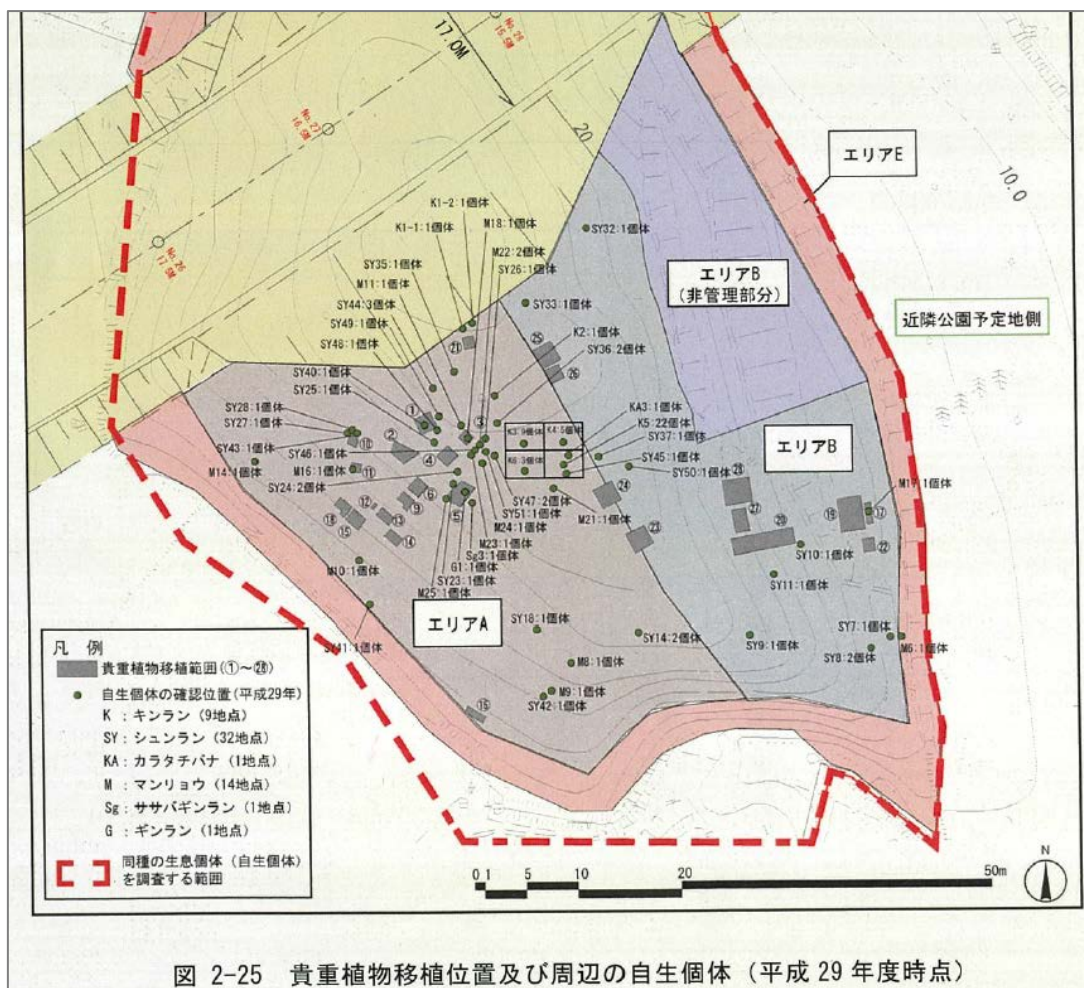
出典：中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言（H30.2）p.44

出典：中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言（H30.2）p.50

ゲンジボタルは本提言以降に継続的な調査が行われていないものの、過去に生息していたことが明らかとなっていることから、公園整備においてゲンジボタル（生物調査で確認できたヘイケボタルも）が生息できる環境づくりを行う方針とします。

3-3 貴重植物の移植地について

貴重植物については、本提言 P.53 以降に示されている内容にて、近隣公園予定地内に移植されていることを確認できますが、P.60 には踏みつけや盗掘への影響を回避するために『立ち入り制限を行うことが望ましい』と記載されています。



出典：中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言（H30.2） p.59

今後、本地域で継続的にこれらの貴重植物が生育可能な環境を担保するためには、定期的な間伐や、草刈り等により、適切な生育環境を維持していくことが重要となる。中でも、公園等の担保性の高い公的管理予定地の樹林地の環境の維持は重要である。なお、踏みつけや盗掘への影響を回避するために、立ち入り制限を行うことが望ましい。

これらの状況を踏まえ、以下を提言することとした。

◆貴重植物を保全するため、今後も担保性の高い公的管理用地等を活用しながら、貴重植物が生育する林の生育環境の保全に配慮すること。

出典：中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言（H30.2） p.60

さらに、本提言 P.66 には近隣公園内の移植地での維持管理内容が示されています。

表 3-3 近隣公園・緑地の維持管理内容について

管理目標	管理メニュー	実施内容
貴重植物 生育環境 の維持	草刈りによる 林床環境の 維持	<p>◆当該地区に生育する貴重植物は、明るい林床を好んで生育する種であり、定期的な林冠を覆う高木の間伐や枝払い、草刈り等による林床環境の維持が望ましい。</p> <p>◆ササ類等の地下茎をのぼして生育域を拡大する種や、クズのように上から覆いかぶさるツル植物等の繁茂により被圧されることがない様に注意しながら、年 1 回程度の草刈りが望ましい。</p> <p>◆草刈りの時期は、植物の専門知識がある者が実施する場合以外は、12 月～2 月の冬季が望ましい。植物が旺盛に繁茂するのは夏季～秋季だが、冬季に実施すると、キンラン、ヤマユリ等は地上部がない期間であり、草刈り時の貴重植物刈り取りのリスクがやや低減される。</p> <p>◆ただし、冬季にもシュンラン等の常緑性の植物は生育している。これらに注意しながら地表から 10cm 程度のやや高い位置で刈りとることが望ましい。</p>
	立ち入りの制限	<p>◆盗掘等の対策として、必要な箇所には立ち入り制限柵等の設置が望ましい。</p>

02. 出典：中根・金田台地区における貴重動植物の生息環境の保全に関する提言（H30.2）p.66

貴重植物の移植地は、現在も保全活動が継続されており、市民からの関心も高い状況にあるため、保全活動を継続していく必要があります。本場所は、傾斜地となっているため、園路を通す場合は階段が必要となり、その場合は樹木の伐採等が必要になりますが、植物保全の観点からは望ましくありません。一方で、公園という性質を鑑みると、完全に閉じられた空間とするのではなく、貴重植物のことを知る機会が得られることも重要です。

したがって、急勾配の箇所など滑落の危険がある場所については、進入抑止の柵を設けるなど安全管理は行いますが、ハード整備は最小限とします。一方、貴重植物の生息環境を維持していく観点から、維持管理において草刈り等を定期的に行うこととします。

以上を踏まえ、本公園では以下の環境づくりを目指します。

1) 多様な生き物の生育・生息環境の保全と創出を行う

本公園は、南側の敷地境界付近は高さが低くなっており、公園内の雨水や斜面林（保安林）からの染み出し水が溜まりやすい環境になっています。それにより、敷地境界付近に自然の水路が形成されており、しばらく降雨がない状態でも水が溜まっています。また、かつて田畑として使われており、下流に水を流せるようになっていたことから、公園の南東側が低くなっており、水が溜めやすい環境になっています。

この環境を活かし、公園の南東部に雨水や染み出し水を貯留したビオトープ池を創出します。このビオトープ池では、ゲンジボタルやヘイケボタル等のホタル類をはじめとした多様な生物が生育・生息できる環境をつくります。

2) 生き物に身近にふれあえる環境をつくる

多様な生き物が生息していることを身近に感じられることも重要です。そのため、生き物の生育・生息環境をつくるだけでなく、それらを身近に観察できる環境づくりを行います。ビオトープ池に近づけるようにするとともに、必要に応じて生物の案内などを表示します。

3) 環境学習など生き物にさらに関心を高める取り組みを行う

生き物の生育・生息環境を保全していくには、継続的な取り組みが重要となりますが、それには地域の方々の協力も不可欠です。そのため、多世代への環境学習などを行い、本公園や地域にどのような生き物がいるかを知ってもらうとともに、それらを保全する重要性、保全するにはどんなことが必要かなどを含めて周知していくことが重要です。特に、隣接地に小学校が開校することから、学校と連携した取り組みも効果的となります。

4) 貴重植物の移植地の維持管理を行う

貴重植物の移植地は、すでに移植が行われ、モニタリングも行いながら管理されている場所です。開園後も、植物の生息環境が維持されるよう、定期的な草刈りや必要に応じてモニタリングを行うなど、適切な維持管理を行います。

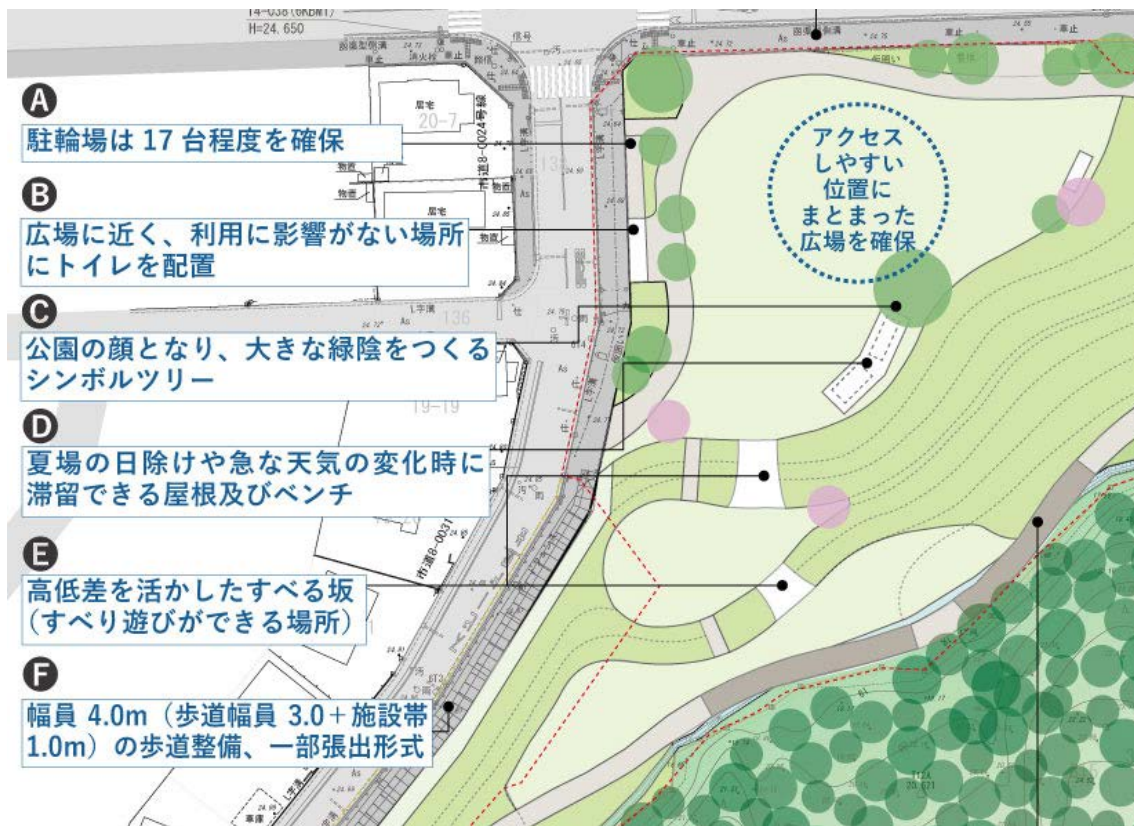
⑦空間構成の検討と設定

基本計画図（案）の作成に向けて、空間の考え方を以下のとおり整理しました。
考え方は下図の 01~06 に分割し、次頁以降に記載します。

Key Plan



Key Plan 01



<考え方>

広場 | 周辺の宅地からアクセスしやすい位置に、まとまった広場を配置します。

- A. 駐輪場** | 「③導入施設の検討と設定」で設定した17台以上を確保します。日常の利便性を考慮し、広場に近い場所への配置を考えます。
- B. トイレ** | 「③導入施設の検討と設定」で設定した穴数を設置します。利便性や防犯面から人の集まりやすい広場から視認でき、アクセスしやすい位置への配置を考えます。
- C. シンボルツリー** | 公園の様々な場所から視認でき、地域の方々の拠り所として配置します。広場からの視認性を確保できる場所への配置を考えます。



トイレの例



シンボルツリーの例

D. **屋根やベンチ** | 広場と一体的に使いやすく、公園の各方面を見通せる位置に休憩機能を持った屋根やベンチなどの配置を考えます。

E. **すべる坂** | 地形を活かして遊べるよう、高低差が生じる場所に滑り遊びができる坂などの配置を考えます。

F. **歩道整備** | 公園の西側に、さくら小学校の開校に合わせて（令和 8 年 4 月開校予定）有効幅員 3m の歩道が新たに整備予定です。

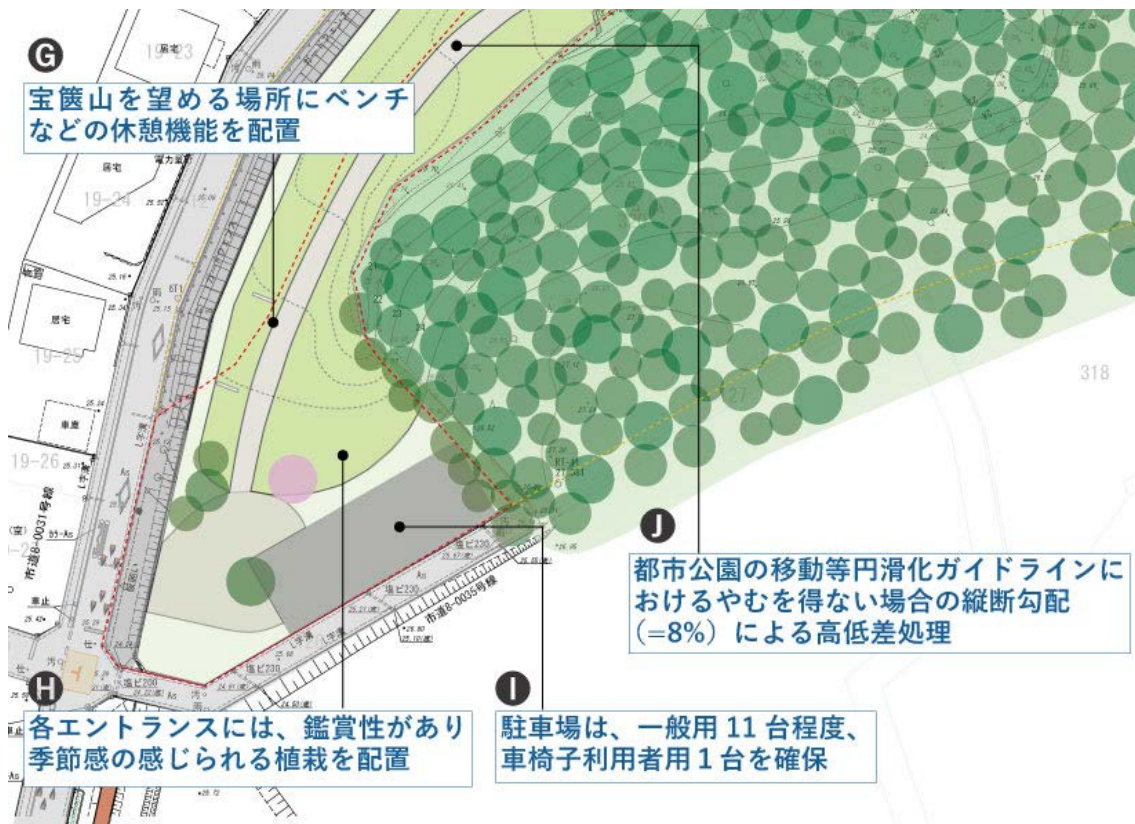


屋根やベンチの例



すべる坂の例

Key Plan 02



<考え方>

- G. **眺望を活かした休憩場所** | 宝篋山が望める環境を活かし、日常的な散策や休憩の中で宝篋山の眺望を楽しめる休憩場所を設けます。
- H. **エントランス** | 各エントランスには、花木など鑑賞性があり、季節感を感じられる植栽を配置して、来園者を出迎えます。
- I. **駐車場** | 北側の広場を広く確保し、利用しやすくするため、駐車場は南側への配置を考えます。「③導入施設の検討と設定」で設定した一般車 11 台、車いす用 1 台を想定します。
- J. **緩やかな坂道** | 南側エントランス付近は高低差がありますが、ベビーカーによる利用など、多様な利用を想定するため、階段ではなく、緩やかな坂道の園路にできるよう計画します。

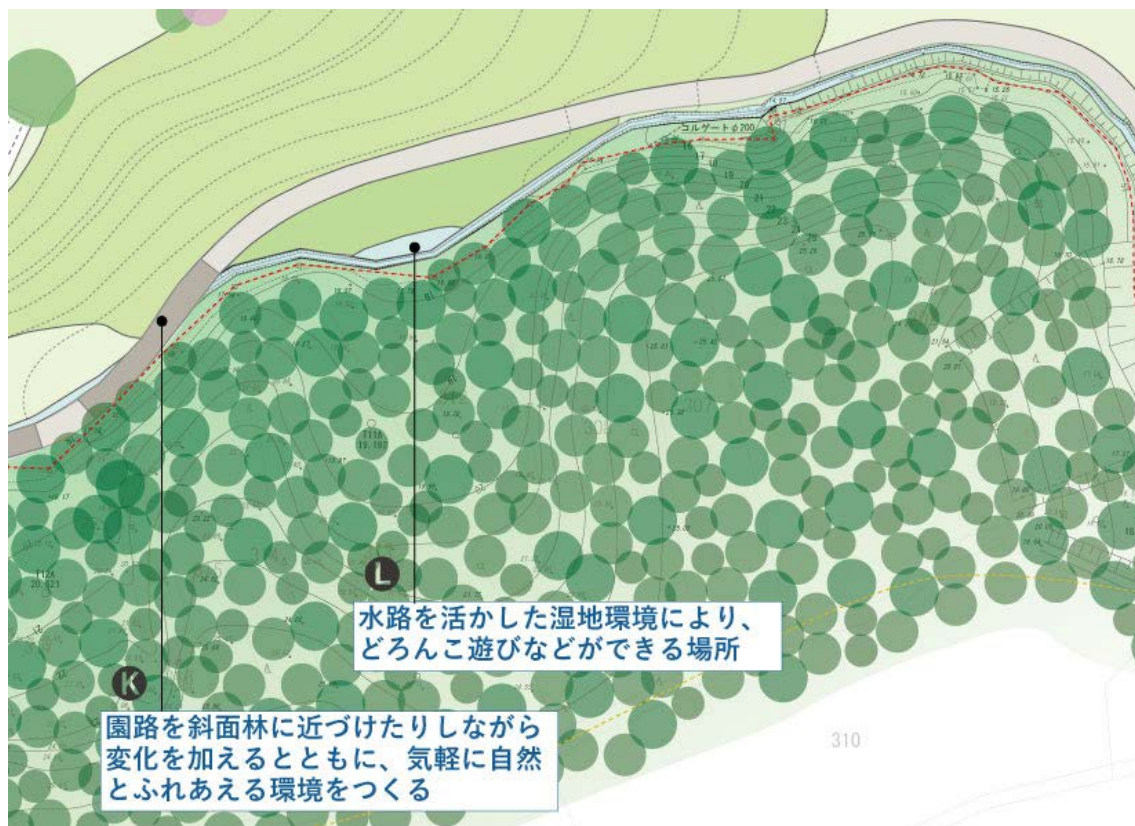


宝篋山の眺望



緩やかな坂道の例

Key Plan 03



<考え方>

- K. **斜面林に近づける園路** | 公園に隣接して豊かな斜面林（保安林）があるため、園路を近づけて自然を楽しめる環境づくりをします。
- L. **湿地環境** | 計画地内に溜まった雨水や隣接する斜面林からの染み出し水によって湿地環境がつけられているため、それらを活かし、どろんこ遊びなど湿地を楽しめる環境をつくります。

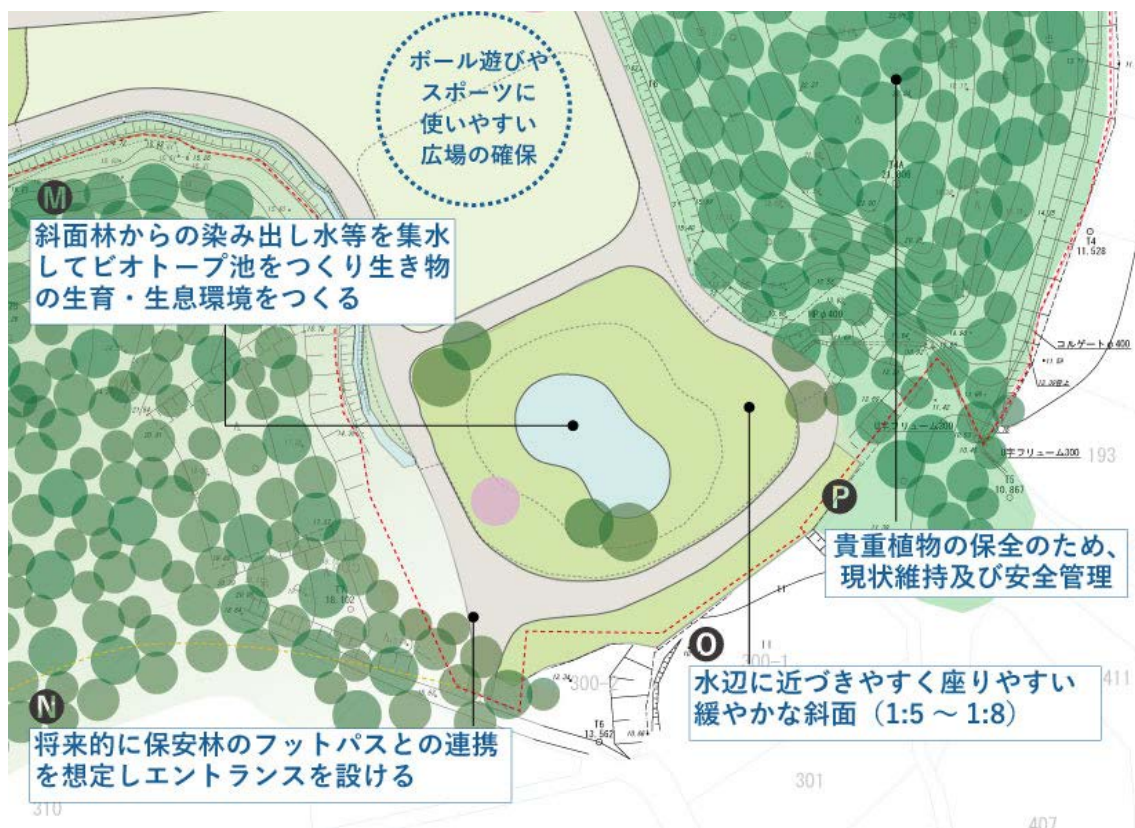


斜面林



湿地環境

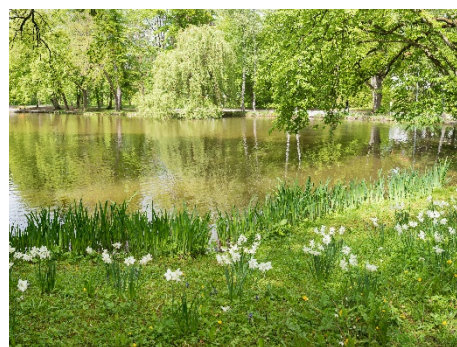
Key Plan 04



<考え方>

M. ビオトープ池 | 計画地内に溜まった雨水や斜面林からの染み出し水等を活用し、多様な生物の生育・生息場となるビオトープ池の創出を目指します。

N. エントランス | 隣接する保安林内には未整備の市道があり、将来的には利活用できる可能性があります。これを見据えて歩行者のネットワークが作れるよう、エントランスが作れるように計画します。

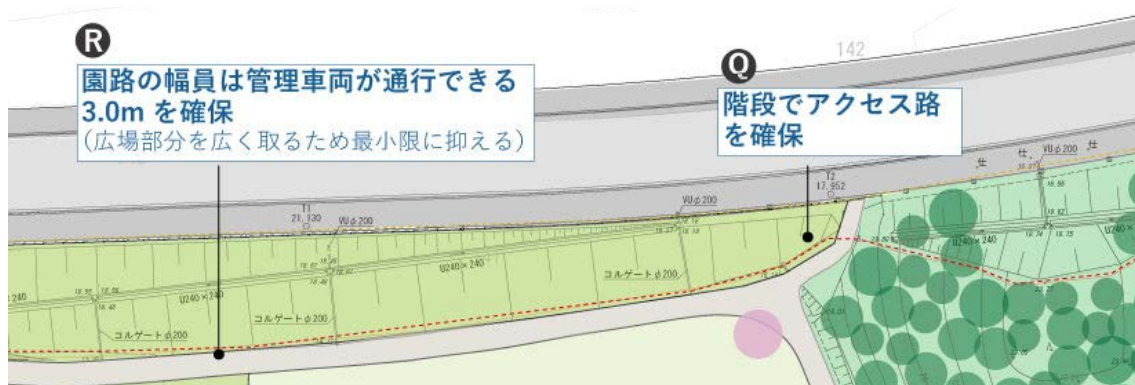


ビオトープ池の例

O. 緩やかな斜面 | ビオトープ池は生物の生育・生息場としてだけでなく、地域の方々が日常的に生物に触れ合えるよう、水辺に近づきやすい緩やかな斜面とするとともに、水辺の近くで座りやすいように計画します。

P. 貴重植物の保全 | 貴重植物の移植地となっている箇所は、継続して保全を行うため、安全管理等の最低限の整備に留めます。

Key Plan 05



<考え方>

- Q. 県道からのアクセス** | 県道のうち、上境地区や上野地区方面から入りやすくするとともに、公園内からの2方向避難を確保するため、東側にも県道からのエントランスの設置を考えていきます。
- R. 園路幅員** | 維持管理のしやすさを踏まえ、園内を管理車両が周回できる幅員としつつ、広場等のスペースを広く確保するため、園路幅員は 3.0m 以上とします。



県道からのアクセスの確保

[illegible]

S. 多様な勾配のみどりの坂 | 計画地の地形から、広い斜面が生じるため、勾配を変化させ（1:2~1:10 程度）、寝転がったり、駆け回ったり、座って遠くを眺めたり、滑り遊びができるように工夫していきます。



T. エントランスからの視線の抜け | 上図のエントランス付近は、計画地内では標高が高いため、周辺への見通しがあります。周囲への眺めを確保できるよう、視線の抜けがある施設配置を検討します。



A wide-angle photograph of a grassy field, likely a park or open space. In the foreground, the grass is green with some dry patches. A line of trees and shrubs runs across the middle ground. In the background, a hill rises, covered in dense green foliage. The sky is bright blue with scattered white clouds. On the left side, a few houses are visible behind a fence.

79

⑧整備水準の検討と設定

園路や広場等の主要施設について、想定する整備水準を以下に示します。

表 主要施設の整備水準

項目	水準
園路	・ 幅員は管理用トラックが通行できる 3.0m 以上 ・ 舗装は上記車両に耐えうる舗装
広場	・ 芝生や播種などによる草地 (小さい子どもでも安心して遊べることや裸地による飛砂へ配慮)
駐車場	・ 一般車 11 台、車いす用 1 台以上
駐輪場	・ 17 台以上
斜面	・ 播種などによる草地 ・ 人工的にならないよう、ラウンディング等に配慮
すべる坂	・ 人造研ぎ出し仕上げ
ベンチ等	・ 場所や使い方に応じた素材や形状を設計時に検討
水路	・ 人工物を使わない自然水路（暗渠管等は除く） ・ 生物の行き来を考慮した断面
ビオトープ池	・ 水の浸透を防ぐため、底面はたたき粘土や防水シートなどにより止水 ・ 安全管理上、侵入防止の柵を設ける場合は、自然素材等を用いるなど、自然環境へ配慮
植栽	・ 地域性のあるものの中から設計時に選定 ・ 緑陰、鑑賞性、生物多様性等を考慮
水飲み	・ UD に対応したもの
照明	・ 照度基準等を踏まえ、設計時に検討

⑨維持管理方法の検討と設定

1. 通常の維持管理

公園の植栽、施設、設備等の通常の維持管理については、計画、整備内容に応じて検討が必要になりますが、現時点で以下のような維持管理が必要と考えます。

表 通常の維持管理

項目	維持管理
雑草等	年 3 回程度の草刈り(芝生の場合は芝刈り)
高木・低木等	剪定、刈り込み(適宜)
公園・トイレ	週 1 回程度の清掃
池・沼	葉っぱの除却など(適宜)
貴重植物の保存地	年 1 回程度の剪定、高刈り、モニタリング調査
照明器具	不具合等の調整(適宜)

2. ビオトープ池

ビオトープ池は、生物の生育・生息場とするため、水際の植生なども含めて多様な空間となるため、以下のようなチェックや維持管理が必要となります。

以下の確認事項や維持管理は現時点の想定であるため、設計時に空間を具体化する中で、改めて検討が必要になります。

表 ビオトープ池の維持管理

項目	確認事項	維持管理
土砂の堆積状況	・水深が確保されているか ・土砂が溜まりすぎていないか	・土砂の撤去（適宜）
雑草等の状況	・雑草などが過剰に繁茂していないか	・草刈り（園内の芝地や草地の管理または貴重植物の保全地の管理に合わせて実施）（定期的）
生息環境の確認	・目標種の生息が確認できるか	・生息環境を維持
	・外来種が繁茂していないか	・状況に応じて外来種を適切に防除（適宜）
施設の状況	・安全管理の柵等が老朽化していないか	・目視確認と必要に応じた更新

(4)基本計画図の作成

市より貸与された計画地の測量図及び計画地西側の市道設計図をベースとし、基本計画図を作成しました。

基本計画図は次頁に示します。

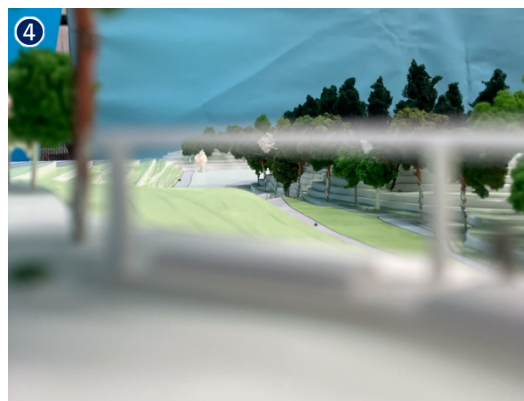
■基本計画図作成に使用したベース図

1	(計画地及び周辺の一部) 6 市単公施中根・金田台 1 号近隣公園測量業務委託 測量図面 01 平面図
2	(計画地西側の市道) 7 市単道改第 号春風台地区道路改良舗装工事 (第 2 工区) 02-3 修正計画 平面図 2



基本計画平面図

基本計画図に基づき、第2回ワークショップに向けて模型を作成しました。模型の写真を以下に示します。



基本計画図に基づく模型写真（鳥瞰・アイレベル）



基本計画図に基づく模型写真（アイレベル）

(5)住民意識調査・合意形成支援(ワークショップ等の開催)

基本計画の策定にあたり、ワークショップ(2回)及び、周辺地域で活動を行っている地域団体にヒアリングを実施しました。

実施内容

1. 目的

(1)地域住民の多様な声を丁寧に収集し、地域の実情・ニーズを把握したうえで、公園活用方針に対して住民・関係者間と共に検討しながら合意形成を図ること。

(2)公園の自治(地域住民や地域団体が能動的に公園運営に関与すること)の重要性について関係者の理解を促進して、自治のあり方について共感・協力してくれる住民・団体・機関との接点を増やし、将来的な公園の運営体制の構築につなげること。

2. 実施の流れ

月	ワークショップの取り組み	地域団体ヒアリング
5月	ワークショップ全体の概要整理	
6月	第1回ワークショップ企画作成	
7月	第1回ワークショップ実施(7月19日)	ヒアリングの実施 ・ NPO 法人金田台の生態系を守る会 ・ つくば遊ぼう広場の会
8月	第1回ワークショップ振り返り	
9月	第2回ワークショップ企画作成	
10月	第2回ワークショップ実施(10月12日)	
11月	第2回ワークショップ振り返り	

3. 第1回ワークショップ

3-1 実施概要

実施時期	令和7年7月19日 9:00~12:00
実施場所	中根・金田台1号近隣公園予定地 / つくば市立栗原小学校体育館
テーマ	「公園で遊ぼう、公園を考えよう！」
プログラム	①公園で遊ぶ@中根・金田台1号近隣公園予定地 ②公園を考える@つくば市立栗原小学校体育館
概要	周辺にお住まいの、地域の子どもや保護者、各区会代表の方々、地域団体の方々が参加し、「公園で遊ぼう、公園を考えよう！」テーマに実施しました。「公園で遊ぶ」「公園を考える」の2部構成とし、「どんな公園にしたいか」を考え、公園予定地での体験後、栗原小学校体育館での意見交換を実施しました。
参加者数	29名

3-2 当日のプログラムの流れおよび様子

第1回ワークショップでは、近隣500m範囲内にある区会や、地域団体への声かけ、栗原小学校でのチラシ配布により、参加者を募集しました。当日は、参加者のみなさまと一緒に「どんな公園にしたいか」を考え、公園の魅力や可能性を体験しながら議論を行いました。「どこをどう使うと楽しいか」「何があるとその楽しみが広がるか」など、自分たちの場所としての可能性をふまえて、公園予定地で実際にそれぞれが公園の魅力や可能性を体験しながら、それぞれの楽しみ方を発見しました。体験後、栗原小学校の体育館で意見交換を行い、将来像(ビジョン)と整備・運用のアイデアをたくさん出し合う場となりました。

当日のプログラムの流れ

プログラム① 公園で遊ぶ 中根・金田台1号近隣公園予定地



五十嵐市長、事務局より元陸上選手の為末大(男子400mハードル)も参加しました！

当日はぬかるみなどで立ち入りが難しい場所を避けながら、敷地内及び沿道から全体を見学しました。見学後、開放された場所で虫取りやボール遊び、斜面を段ボールで滑るなど、自由に遊びながら、様々な気づきや楽しみ方を発見しました。

プログラム② 公園を考える つくば市立栗原小学校体育館

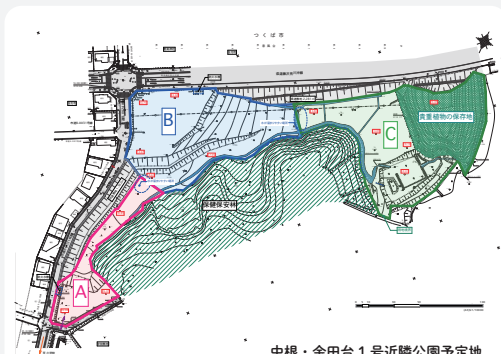


体育館に移動後は、公園での体験をもとに「こんなことがしたい」「こんな施設がほしい」といった意見を出し合いました。見学や遊びの中で得た発見をシェアしながら、安全や管理に必要な施設についても多くのアイデアが話し合われました。

プログラムは2部構成で実施

集まったアイデア

子どもから大人まで、さまざまな視点から、公園予定地の場所ごとに遊びや自然、施設に関するたくさんのアイデアが集まりました。



公園予定地をA B Cの3エリアに分け、場所ごとにアイデアを出し合いました

アイデアの一部（順不同）

A エリア すべり台 ターザンロープ スケートボード 鉄棒 ドッグラン
遊歩道 トイレ 水場 時計 駐車場 モニュメント 天体観測 景観 など...

B エリア すべり台 バスケットボール サッカー 筋トレ ターザンロープ
アスレチック ジャングルジム 砂場 スケートボード 50m タータン かけこ
なわ跳び 芝すべり シャボン玉 鬼ごっこ ハンモック BBQ 場 遊歩道
階段 時計 東屋 橋 トイレ 自動販売機 水場 小川 駐車場 駐輪場
ゴミ捨て場 栽培 落ち葉置き場 など...

C エリア ブランコ トランポリン うんてい タイヤ バスケットボール
ジップライン 野球 なわ跳び 鬼ごっこ ドッグラン ピクニック 東屋 照明
キャンプ BBQ 場 自動販売機 自転車コース トイレ 水場 池・沼 遊歩道
ビオトープ 田んぼ 植物観察 蛭鑑賞 鳥の観察 昆虫採集・観察 など...

全体 犬の散歩 バリアフリー ランニングコース 東屋 安全対策
看板 ベンチ 学校連携 シンボルツリー イベント など...

集まったアイデアの一部



写真1 公園予定地での集合写真



写真2 公園予定地の散策の様



写真3 体育館に移動してグループワーク



写真4 公園についてアイデアを出し合う

3-3 アンケート結果

第1回ワークショップの実施後、ワークショップの感想について、アンケートを実施しました。

ワークショップの満足度は全員が「とても楽しかった」「まあまあ楽しかった」と回答し、満足度が高い結果となりました。また、公園づくりへ関与したいかどうかの問いについては、「とても思った」と回答した参加者が7割を占め、地域の関心と協働意欲の高まりが確認できました。

質問②

今日のワークショップはどうでしたか？
あてはまるものを1つえらんでください。

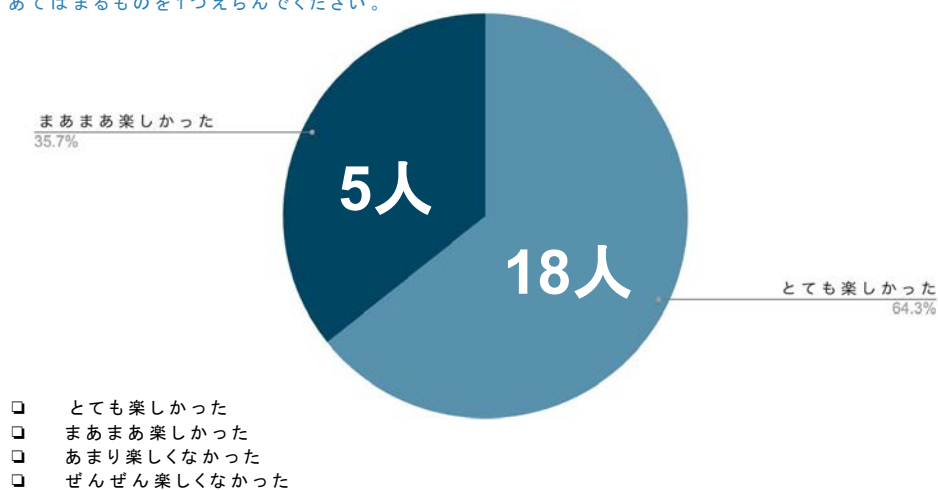


図 1: 質問②の回答結果

質問③

このワークショップに参加して、公園づくりにもっと関わってみたいと思いましたか？
あてはまるものを一つえらんでください。

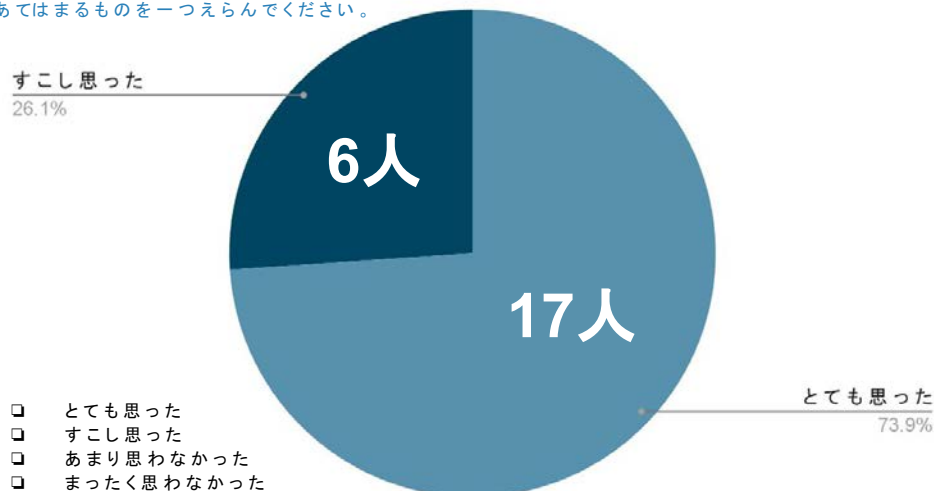


図 2: 質問③の回答結果

4. 第2回ワークショップ

4-1 実施概要

実施時期	令和7年10月12日 9:30~11:30
実施場所	つくば市さくら運動公園 桜総合体育館
テーマ	「公園のカタチを考えよう！」
プログラム	①公園のカタチを見てみよう ②私たちの公園を育もう
概要	周辺にお住まいの、地域の子どもや保護者、各区会代表の方々が参加し、「公園のカタチを考えよう！」をテーマに実施しました。「公園のかたちを見てみよう」「私たちの公園を育もう」の2部構成とし、第1回ワークショップの成果を踏まえた公園の全体イメージを共有し、実際に公園を使用する想定をしながら、意見交換を行いました。
参加者数	17名

第2回のワークショップでは、近隣500m範囲内にある区会への回覧や、地域団体への声かけ、栗原小学校でのチラシ配布により、参加者を募集しました。第1回ワークショップでの成果をふまえ、「公園のカタチを考えよう！」をテーマに、公園の全体イメージを共有しながら、それぞれ興味が沸いたことや、より良くするためのアイデアを出し合いました。その後、実際に公園を使用する想定をしながら、公園を地域みんなで育む場所と考え、「もし、自由に音を出せるとしたら」をテーマに沿って様々な立場から、意見交換を行いました。

当日のプログラムの流れ

プログラム① 公園のカタチを見てみよう



全国やつくば市の都市公園の背景や事例の紹介を交えながら、今回の公園の全体像についてスライドや模型などを用いて共有しました。その中で、具体的な項目をあげながら、興味が沸いたポイントや、もっとこうなったら良いと思うことを、それぞれ共有し合いました。

プログラム② 私たちの公園を育もう



実際に公園で過ごすイメージを持ちながら、今回は「音」をテーマに設定し、公園の使い方の可能性を広げると同時に、実施するための懸念や課題事項について、各グループで話し合いました。自らが運営や利用の視点で考えてみることで、様々な議論が生まれました。

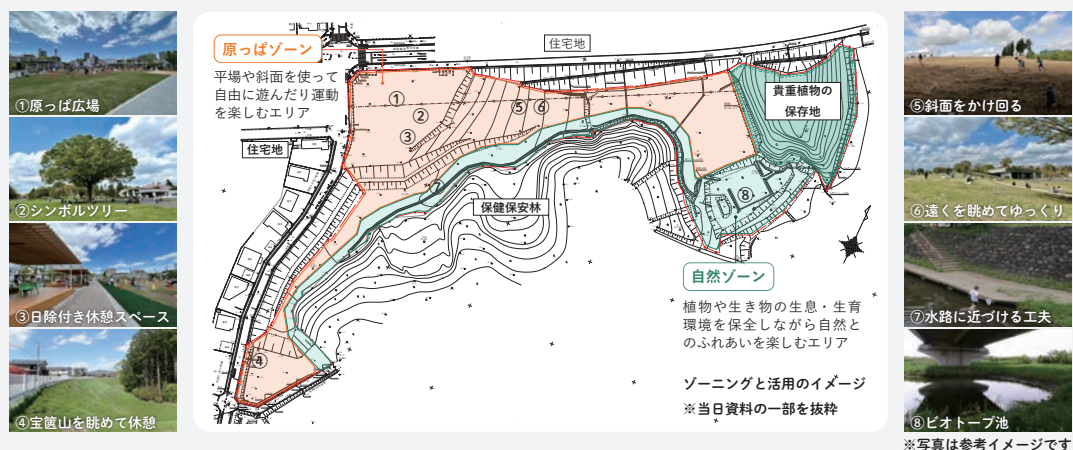
プログラムは2部構成で実施

公園の活用のイメージ

「庭」をテーマに、以下のポイントを大切にしながら、ゾーニングと活用のイメージを整理し、共有しました。

- 起伏に富んだ地形や、豊かな自然環境を活かした活動、遊び、学びの体験
- 公園を利用しながら、自分たちで使い方の可能性を広げていけるような余白
- 子どもから高齢者、地域の団体の方々まで、地域に親しまれる庭のような存在

また、各エリアに、広場や、敷地内の園路、駐車場、日除やトイレなどの施設、ビオトープ池などの配置を想定しながら、具体的な内容も交えて意見交換を行いました。



ワークショップ内で共有した公園活用のイメージ

① “公園のカたちを見てみよう” であがった声

周回できる歩道は良い運動になりそうで良いと思いました

斜面を利用したすべり台が楽しそう

庭の考え方、イメージが良いと思いました

水路に水を集中させる、ビオトープが良いと思いました

手洗い場など水場があるとうれしい汚れても洗えるし、暑さ対策にも

周辺も含めて全体的に考えられると良い

自然が豊か、生き物がいっぱい良い

木はもっと増やせると良い暑さをしのげるところが必要

など

その他、自然との調和や、様々な年齢層の利用者の想定、照明や遊具についての考え方、隣接する保安林の活用の可能性など、さまざまな視点での意見があがりました。

② “私たちの公園を育もう” で生まれた議論

ライブを開いたり、祭りもいいし大声大会もやりたい！

共通の趣味の友人が増えるかも

音楽のイベントなど楽しいことが企画できる

公園に足を運ぶ機会が増える

大きい音を夜に出すと、近くの住民からクレームがきそう

ルールづくりが必要

大きい音を出して良い時間や日にちを決めたらよいかも？

看板を設置したら公園に来る人に知ってもらえる？

など

今回は「もし、公園で音を自由に出せるとしたら」をテーマに設定し、やってみたいアイデアをあげながら、良いことや現実的に出てくる課題など双方の視点で議論が行われました。

ワークショップ内で集まった声や議論内容の一部



写真 1 公園の全体イメージ模型を眺める様子



写真 2 4つのグループに別れて意見交換



写真 3 公園の全体イメージ模型を覗き込む様子



写真 4 運営や利用の視点での議論

「公園のカタチを見てみよう」で上がった主な項目や意見を表にまとめました。

表「公園のカタチを見てみよう」での Good、More の主な項目・意見のまとめ

Good(興味が沸いた場所、共感を持てたポイント)	More(こうすればもっと良くなると思うこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・庭の考え方、イメージ ・自然、生き物 ・水路の水を集中させる案 ・ビオトープ ・斜面を利用したすべり台 ・トイレの設置 ・駐車場の位置と考え方 ・東側の出入り口や動線 ・ウォーキングなど、周回できる歩道 ・遊べる下の広場 	<ul style="list-style-type: none"> ・保安林も含めた活用 ・BBQ など火を使う活動の実施 ・木陰やベンチの設置 ・自然の素材を使った歩道や駐車場 ・最小限の照明 ・水道などの水場の設置 ・幅広い世代の利用 ・ヘビなどの危険な生き物との共存 ・ブランコやすべり台などの遊具の設置 ・自販機の設置 ・駐輪場の配置 ・ゴミ箱の設置の有無

4-3 アンケート結果

第1回ワークショップの実施後、ワークショップの感想について、アンケートを実施しました。

参加者全員が「とても楽しかった」「まあまあ楽しかった」と回答し、満足度が高い結果となりました。また、「公園づくりに今後も関わってみたい」と回答した参加者も全員となり、引き続き公園づくりへの関心を持っていただけていることが確認できました。

質問②

今日のワークショップはどうでしたか？
あてはまるものを1つえらんでください。

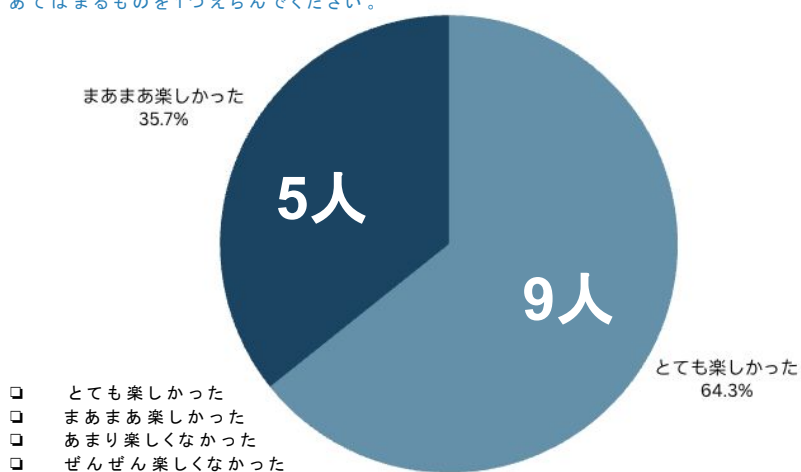


図 1: 質問②の回答結果

質問③

このワークショップに参加して、公園づくりにもっと関わってみたいと思いましたか？
あてはまるものを一つえらんでください。

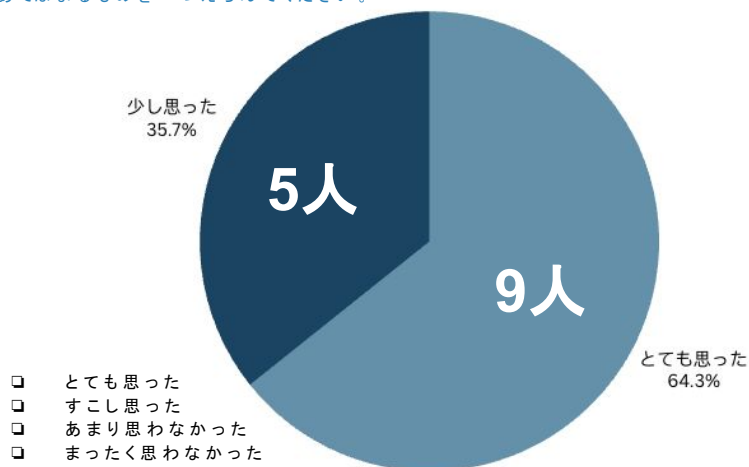


図 2: 質問③の回答結果

5. 地域団体へのヒアリング

5-1 ヒアリング実施概要

実施時期	令和7年7月4日 16:00~18:00
実施場所	つくばスタートアップパーク / オンライン
対象	①NPO法人金田台の生態系を守る会：16:00~17:00 ②つくば遊ぼう広場の会：17:00~18:00
概要	公園の自治運営の可能性を検討するにあたり、周辺地域で活動する団体にヒアリングを実施しました。ヒアリングでは団体の活動内容や、公園に期待することなどを広くお話しを伺いました。それぞれ第1回ワークショップにもご参加をいただきました。

5-2 地域団体の概要

団体名	①NPO 法人金田台の生態系を守る会
ホームページ	https://kondadaiseitaikei.jimdofree.com/
概要	<p>『金田台（こんだだい）の生態系を守る会』は、茨城県つくば市にある「金田台」という場所の自然環境を保全することを目的とした活動団体です。</p> <p>金田台は国指定の金田官衙・金田城跡など遺跡が多く、また自然も豊かで「オオタカ」や「サシバ」、「フクロウ」などの猛禽類を頂点とした食物連鎖の営みが繰り返され人と生き物が共存してきました。</p> <p>生命を生み出す大地の樹林、草原、湿地など多様な自然環境は生物多様性を維持するためには必要不可欠です。この魅力的な自然環境を保全し、次世代へ継承することは、持続可能な社会をめざすことでもあると考えます。</p> <p>金田台は現在では大半がつくば市の「歴史緑空間」となり、当会はアダプト・ア・パーク団体として清掃・除草などにも取り組んでいます。</p> <p>(参考: NPO 法人金田台の生態系を守る会ホームページ)</p>

団体名	②つくば遊ぼう広場の会
ホームページ	http://asobouhiroba.web.fc2.com/
概要	<p>つくば遊ぼう広場の会は、遊びを人と人とのつながりととらえ、より豊かな遊びの環境を作ることを目指し、会を運営しています。</p> <p>つくばの遊び環境の充実のために、</p> <p>豊かな遊びの機会の提供</p> <p>プレーパークであるゴンタの丘などで毎月一回「遊ぼう広場」をする、キャンプを企画する、など。</p> <p>遊びについて認識を深める啓発活動</p> <p>遊びの講習会を開く、講演会を開く、子供に関する映画の上映会を開く、など。</p> <p>各地域の遊びに関する活動との交流</p> <p>地域の育児・乳幼児サークル、児童館などでの企画にスタッフを派遣する、ゴンタの丘整備に協力する、など。</p> <p>という活動をしています。</p> <p>(参考:つくば遊ぼう広場の会ホームページ)</p>

6. ワークショップ後の気づき・視点

最後に、実施した2回のワークショップを通じて得られた気づきや視点について以下にまとめます。

6-1 自然に対しての関心

計画地は高低差・斜面・湿地が複合する起伏地で、貴重植物の保存地や水が溜まりやすい低地が確認されていることが共有されました。現地観察や遊び（虫取り・斜面遊び等）を通じて、ビオトープや池・小川、昆虫や鳥の観察、蛍鑑賞、植物観察・田んぼなど、「自然を体験し学ぶ使い方」への具体的な関心が多数挙がりました。

6-2 公園の施設や設備に対する関心

意見交換では、東屋やベンチ、手洗い場・水場、休憩や待機に使える場所など、日常的に過ごしやすい施設や設備への意見が多数示されました。これらは「遊ぶ・学ぶ」と一体で使える拠点機能として言及され、ゾーニング検討でも日除けやトイレ、園路・広場などの配置を想定しながら、具体的な議論が行われました。特に、近年の夏場の気温上昇による暑さ対策に関する意見も多く見られました。

6-3 プロセスに関わることへの関心

地域団体からは「公園をつくる前に話をしてもらえたのは初めて」との声があり、事前に意見交換の場が設けられたことへの評価がありました。また、ワークショップに参加者からは、「庭」というコンセプトにも共感が集まり、自分たちの生活と地続きの場として関わりたいという意識が高い結果が見られました。アンケートでも2回とも多くの参加者が「今後も関わりたい」と回答しており、継続的に公園を育てていく意欲が確認されました。

(9)鳥瞰図等の作成

基本計画の内容を元に、鳥瞰図(A3)を作成しました。

